
「日本博」について

令和元年7月



独立行政法人
日本芸術文化振興会

1. 経緯

- 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」(主催:安倍総理、座長:津川雅彦氏)において、日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施策の検討等を実施。
- 2020年の「日本博」については、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として日本の全国各地で実施することとされ、第6回の同懇談会(2018年6月22日開催)において、総理から文部科学省・文化庁に対して準備を進めるよう指示。

2. 関連スケジュール

2015年: 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」発足

2016年: 「日本仏像展」(於:イタリア)を開催

2018年: 「ジャポニスム2018」(於:フランス)を開催

2019年: 「Japan 2019」(於:米国), 「響きあうアジア2019」(於:東南アジア)を開催

2020年: 「日本博」(於:日本)を開催

(※ 同年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催)

1 総合テーマ：「日本人と自然」

2 基本コンセプト

「日本の美」は、縄文時代から現代まで1万年以上もの間、大自然の多様性を尊重し、生きとし生けるもの全てに命が宿ると考え、それらを畏敬する「心」を表現してきた。

日本は、景観や風土を大切にし、縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、現代の漫画・アニメなど様々な分野、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式等において、人間が自然にたいして共鳴、共感する「心」を具現化し、その「美意識」を大切にしている。

「日本博」では、総合テーマ「日本人と自然」の下に、「美術・文化財」「舞台芸術」「メディア芸術」「生活文化・文芸・音楽」「食文化・自然」「デザイン・ファッション」「共生社会・多文化共生」「被災地復興」などの各分野にわたり、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで更なる未来を創生する。

この文化芸術の祭典が、人々の交流を促して感動を呼び起こし、世界の多様性の尊重、普遍性の共有、平和の祈りへとつながることを希求する。

3 開催時期等

2020年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開

4 実施にあたってのポイント

2020年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、「日本の美」を体現する美術展・舞台芸術公演・文化芸術祭等を全国で展開。

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、四季折々・年間を通じて体系的に展開。

文化庁を中心に、関係府省庁や文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者の総力を結集した大型国家プロジェクト



- オリパラ前、期間中、オリパラ後のインバウンド拡充
- 訪日外国人の「地方への誘客」の促進
- 国家ブランディングの確立

日本博総合推進会議

議長：内閣総理大臣 議長代理：内閣官房長官
議長補佐：内閣官房副長官（参）
構成員：オリパラ大臣、クールジャパン担当大臣、外務大臣、文科大臣、国交大臣、
小林達雄氏、小松大秀氏、島谷弘幸氏、高階秀爾氏

日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議

各省庁間の連携・調整

議長：内閣官房副長官（参）、議長代理：内閣官房副長官補（内政）
議長補佐（全体総括担当）：文化庁長官、議長補佐（オリパラとの連携担当）：オリパラ事務局長

文化庁 全体統括

オリパラ事務局 知財事務局 まちひとしごと事務局 アイヌ政策室 宮内庁 警察庁 総務省 外務省 国税庁 文科省 厚労省 農水省 経産省 観光庁 環境省

文化庁「日本博」企画委員会

有識者、地方自治体代表、産業界代表、日本博事務局事務総長

適宜助言等

企画の立案・実施への助言

国立文化施設

(独) 日本芸術文化振興会
日本博事務局
企画の立案・実施
事務総長：理事長

(独) 国立文化財機構

(独) 国立美術館

(独) 国立科学博物館

国立アイヌ民族博物館

国立近現代建築資料館

織田 紘二	伝統芸能制作者, 演出家
河村 潤子	独立行政法人日本芸術文化振興会理事長
熊倉 功夫	一般社団法人和食文化国民会議名誉会長, MIHO MUSEUM 館長
河野 俊嗣	宮崎県知事
コシノジュンコ	デザイナー
小林 達雄	國學院大學文学部名誉教授
小松 大秀	公益財団法人永青文庫館長
小山 薫堂	放送作家, 脚本家
佐藤 雅敏	三井不動産株式会社取締役常務執行役員
島谷 弘幸	九州国立博物館館長
高階 秀爾	大原美術館館長
根立 研介	京都大学文学研究科教授

(五十音順, 敬称略, 平成31年3月20日時点)

主催・共催型

「総合大型プロジェクト」

「日本博」の中核となる総合大型プロジェクト（国、文化施設、民間団体、事務局等が共同で企画・実施）

(イメージ)

- ▶ 縄文から近現代の美術
- ▶ 伝統芸能・現代舞台芸術
- ▶ メディア芸術
- ▶ 生活文化・文芸・音楽等の複合領域を一つの空間で演出するプロジェクト

「分野別大規模プロジェクト」

「日本博」のテーマ及びコンセプトを加味した大規模な展示・公演等のプロジェクト（全国的な活動を行う団体等が主催）

(イメージ)

- ▶ 地方自治体や文化関係団体等で一定期間実施するプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、被災地との共催、共生社会・多文化共生、最先端技術の導入等に係るものは例外とすることを想定。

公募助成型

「イノベーション型プロジェクト」

各地域や団体の特色ある企画を公募し事業費を一部助成

(イメージ)

- ① 地域の特色を生かして新たに企画・実施するプロジェクト
- ② 文化関係団体が実施する新規性・創造性が高いプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、被災地との共催、共生社会・多文化共生、最先端技術の導入等に係るものは例外とすることを想定。

参画型

各地域や団体の特色ある企画を公募し企画内容を認定

(イメージ)

- ① テーマ、コンセプトに沿う日本を代表するプロジェクト
- ② 「日本博」として国内外に発信するものとして相応しいプロジェクト

等

- ・本年4月以降、「日本博」プロジェクトの公募等を行い、審査・評価の結果、主催・共催型1次・2次分、公募助成型1次分(イノベーション型、文化資源活用推進事業) **全体で計88件を採択**
- ・参画プロジェクト **計93件(7月2日現在)を認証**

◆主催・共催型 :50件

- ※4月18日～23日まで一次受付分 :19件採択(23件提案)
- ※4月24日～5月14日まで二次受付分 :31件採択(46件提案)
- ※5月20日～6月4日まで三次受付分は評価中(7月下旬頃 採択予定)(49件提案)

◆公募助成型 :イノベーション型12件(82件申請) 文化資源活用推進事業26件(31件申請)

- ※7月上旬二次募集開始予定

◆参画プロジェクト :93件(7月2日現在)

◆プロモーション

- ・観光庁、JNTOとの連携による海外発信
- ・7月～8月にかけて、ラインナップリーフレットの作成・配布、HP(英語発信)等を実施
- ・秋以降、本格的なHP等の運用開始、国内外メディア招聘など本格的なプロモーションを開始

◆オープニングセレモニー・記念公演 3月14日(予定)

・縄文から現代までの代表

各地の縄文文化から国宝、浮世絵(北斎など)、日本の衣食住、ユネスコ無形文化遺産、国立公園、マンガ・アニメ、ファッションなどにおいて、日本人が自然とどのように向き合い、文化芸術活動を通じて表現し、守り伝えようとしているか等をテーマに、訪日外国人の方々をはじめ多くの方々に楽しんで頂くことを意識した企画です。

・地域発の国際芸術祭

瀬戸内国際芸術祭など、地方公共団体と芸術団体等が連携して行う地域の国際的な芸術祭が多数企画され、訪日外国人の滞在型誘客を目指しています。

・美術展・舞台芸術に関連した新たな訪日外国人向け体験型プログラム創成

Discoverシリーズ(能狂言、文楽、歌舞伎、組踊)での舞台体験や、美術品・文化財の対話型鑑賞など新たなプログラムを創成します。

・アイヌ(民族共生象徴空間:ウポポイ)2020年4月開始、沖縄の伝統芸能である組踊300周年を機に、全国各地で関連プロジェクトを実施、海外への発信

・全国巡回

日本遺産などの地で伝統芸能、伝統工芸、食文化などの体験型プログラムを企画しています。

以上のような取組を通じて、ジャンルを超えた新たなパートナーシップ構築やプログラム創成のノウハウを蓄積し、今後のレガシーとして次世代へ繋いでいきます。

- ▶ 招待者約700名を迎えて開催。
- ▶ 林英哲氏・英哲風雲の会による和太鼓演奏、宮田文化庁長官と歌舞伎俳優の中村扇雀氏・尾上菊之助氏らによるトークセッションなどを実施。
- ▶ ロゴマークを発表するとともに、柴山文部科学大臣、宮田文化庁長官が日本博開幕を宣言して閉会。



菅内閣官房長官あいさつ

写真提供：独立行政法人日本芸術文化振興会



柴山文部科学大臣らによる開幕宣言

写真提供：独立行政法人日本芸術文化振興会



俵屋宗達「風神雷神図屏風」
高精細レプリカを会場に展示

陶板製作：大塚オーミ陶業株式会社



ロゴマーク、登壇者を囲んで

写真提供：独立行政法人日本芸術文化振興会